

飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

平成 30 年 7 月 31 日現在

今月の重点活動

■すずしろグループ **大根栽培研修会**

7月12日（木）、JAひだ森茂支店において、すずしろグループ大根栽培研修会が開催された。上記グループが生産する「奥飛騨山之村寒干し大根」は、昨年度、地理的表示（GI）保護制度や飛騨市推奨特産品に登録された。その加工に用いる大根の播種を8月に控え、土作りや病害虫防除等について研修を行うとともに、昨年度の栽培について振り返り、意見交換を行った。生産者間で意見を交わすことで、より品質の高い大根の生産にむけての士気が高まった。

農業普及課では、今後も栽培技術の向上や地域振興のために、支援を行っていく。



【大根栽培研修会の様子】

多様な担い手づくり

■野菜 **高山南蔬菜出荷組合青年部視察研修会実施**

高山南蔬菜出荷組合青年部では定期的に研修会を開催して若手生産者のレベルアップを図っている。

本年度は7月13日（金）に第1回目の研修会が開催され、丹生川地区にある（株）スピリットを訪問し、堆肥について学習した。若手生産者は研修の内容を自分の経営に生かすため、熱心に話を聞いていた。

農業普及課は関係機関と連携し、若手生産者の経営安定に向けた支援をしていく。



【研修会の様子】

■飛騨牛 **飛騨子牛市場で新規就農者の飼養管理技術指導**

7月19日（木）、高山市の飛騨家畜流通センターにおいて、子牛市場が開催され、子牛を生産する就農5年目以内の就農者を中心に肉用牛の飼育管理技術の指導を行った。

現在、肉用牛繁殖農家戸数は減少しており、それに伴い子牛市場に上場される子牛頭数も減少している。したがって、飛騨牛振興において繁殖牛と繁殖農家の確保は重要な課題である。

子牛市場では新規就農者が飼育した子牛と熟練農家が飼育した子牛とを比較することができるため、子牛の理想的な体型を説明し、飼育管理技術の改善点を指導した。

今後も革新支援専門員は、飛騨牛の品質向上につながる子牛を生産できるように新規就農者に飼育管理技術の指導を行っていく。



【新規就農者の飼養管理技術指導】

売れるブランドづくり

■ 水稲 **J G A P 認証取得に向けたコンサルティング**

(株) アグリランドでは米等土地利用型作物の J G A P 認証取得に向け取り組みを開始しており、7月12日(木)に G A P アドバイザーを招き、取り組み状況のコンサルティングを受け、今後の計画について打ち合わせを行った。

農業普及課では、管理点の適合基準達成に向けて、リスク評価、必要書類の整備等の支援を行い、認証に向けた必要事項について再確認を行った。

今後は今回のコンサルティング結果を踏まえ、改善点等の整理を行い、関係機関との連携のもと年度内の認証に向け各種支援を行っていく。



【コンサルティング風景】

■ キャベツ・だいこん **キャベツ・ダイコン出荷目ぞろえ会**

7月12日(木)にダナ集荷場にて、出荷組合・飛驒農林事務所・全農・J A ひだ販売戦略課・荘川支店が参加して、出荷目ぞろえ会が行われた。今年は春から気温が高く生育は早かったが、豪雨後、干ばつ気味の天候で生育がやや遅れ、例年より2日早い時期の出荷となった。ダナは1200mの高標高地にあり、じっくり生育するため、重い高品質のキャベツが生産されている。農業普及課では甚大な被害を及ぼすキスジノミハムシの発生状況と対策や農薬の詳しい特性を記した資料を配布し、安全かつ効率的な防除ができるように説明した。



【できました！新キャベツ】

■ 山ぶどう **飛驒山ぶどう研究会が現地巡回視察を実施**

7月4日(水)に飛驒山ぶどう研究会では、今後の栽培管理に生かすために研究会員のほ場を視察する現地巡回を実施した。

この現地視察は毎年実施しており、今年度の生育は、開花期前後の安定した気象より着果が良好であり、平年よりやや多い収量が見込まれた。

今後は主要病害である晩腐(おそぐされ)病の感染に注意が必要となるため、農業普及課では栽培情報等を発信することで、今年度産山ぶどうの安定生産に向けた支援をしていく。

■ モモ **飛驒桃統一目揃え会を開催**

7月10日(火)、J A ひだ果実出荷組合協議会は、7月下旬からの飛驒桃出荷を控え、飛驒桃統一目揃え会を開催した。

目揃え会では、市場4社の担当者及び全農岐阜飛驒駐在担当者から市場情勢の報告がされ、他県産モモは小玉傾向であり、盆に向けて飛驒桃への期待が大きいと説明があった。その後、熟度や着色などについて出席者全員で目揃えを実施し、出荷基準や出荷要領について確認を行った。

農業普及課では、今後も引き続き関係機関と連携しながら、栽培管理に関する指導助言を行い、モモの安定生産に向けた支援を実施する。



【統一目揃え会の様子】

■水稲 **水稲の食味向上に向けて栽培研修会を開催**

飛騨地域では、米の食味ランキングで「コシヒカリ」が4年連続で「特A」を獲得し、11月には第20回米・食味分析鑑定コンクール:国際大会が開催されるなど、米の食味に対する関心が高まる中、美味しい米づくりへの取り組みを進めている。

6月下旬から管内の各地区で水稲青空教室等の研修会が開催され、今後の栽培管理について再確認が行われた。農業普及課では、食味向上に向けた管理のポイントを中心に説明を行い、美味しい米づくりへの取り組みを指導するとともに、秋に開催される食味コンクールへの出品を呼びかけた。



【水稲栽培研修会の様子】

■トマト **GLOBAL G.A.P 認証維持審査にむけた支援**

夏秋トマト、しいたけ生産販売、農産加工生産販売を営む(有)橋場農園では昨年2月にGLOBAL G.A.P 認証を取得し、本年度は維持審査に向けて更なる農場改善に取り組んでいる。

農業普及課では農場改善の一環として行われた従業員への研修会にて、労働安全、食品衛生について説明指導を行った。今後もさらに管内生産者のGAPへの理解が深まり、取組が広がるように支援を継続していく。



【研修会の様子】

■トマト **夏秋トマト独立ポット耕飛騨地域研究会の実施**

中山間農業研究所で試験を進めている、夏秋トマトの独立ポット栽培の飛騨地域研究会が7月25日(水)に行われた。

既に試験導入している生産者や今後計画している生産者も参加して、中山間農業研究所と高山市の現地実証ほ場を見学した。

参加した生産者は「土壌病害の心配がない」や「着果の負担の考え方が変わった」などの意見が聞かれ、今後の導入に向け情報収集の良い機会となった。



【ほ場見学の様子】

■あきしまささげ **現地研修会・目揃会を開催**

あきしまささげは飛騨美濃伝統野菜のひとつで、高山市丹生川町を中心に栽培されるさやいんげんであり、特徴として莢に紫の縞模様が入る。

7月27日(金)、高山市丹生川町において、あきしまささげ出荷者に対する現地研修会及び目揃会が開催された。

はじめに、播種間もない生産者の圃場で現地研修会を行い、その後の室内検討では農業普及課から、誘引・ツルの整理、摘葉、追肥、病害虫防除等について指導を行った。

農業普及課では、収穫までの栽培管理指導を行っていく。



【現地研修会の様子】

■ほうれんそう **ほうれんそう出荷物審査会**

管理が難しい夏期のほうれんそうの品質を一定に保つため、7月20日（金）、JAひだ吉城営農センター野菜集荷場において、吉城蔬菜出荷組合ほうれんそう部会の出荷物審査会が開催された。

審査会は抜き打ちで実施され、当日生産者が出荷したほうれんそうから一部を抜き取り、葉長や葉先枯れ、軸折れ等の項目をもとに審査を実施した。農業普及課では、審査会で確認したほうれんそうの状態を参考に、栽培管理の指導を実施していく。



【審査の様子】